

# 公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会 平成30年度事業計画

## I 公益目的事業

### 1. 農林水産・食品分野における試験研究及び技術開発に功績ある者の表彰

農林水産業及び食品産業の技術革新を通じて国民への食料の安定供給と地域社会の健全な発展に寄与する観点から、試験研究に携わる研究者の意欲の増進と研究成果の普及を目的として、農林水産・食品分野における試験研究及び技術開発に功績のある者を表彰する。

#### 1) 第74回農業技術功労者表彰

農業技術・経営の研究又は技術普及に顕著な功績を挙げた功労者（平成30年4月1日時点において40歳以上）を対象に、農業技術功労者の表彰を実施する。

主 催：農林水産省及び公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

表彰の対象者数：原則として6名以内

公募期間：平成30年6月～8月（例年の予定）

#### 2) 第19回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業

民間部門（農林漁業者を含む）における農林水産研究の優れた功績を表彰する第19回民間部門農林水産研究開発功績者表彰事業を実施する。

主 催：農林水産省及び公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

表彰の対象者：民間部門で、農林水産分野の研究開発に顕著な功績・功労のあった個人または団体（生産現場に密着して、創意工夫により新品種の育成、新栽培法の創出等、優れた技術開発の成果を挙げた生産者を含む）

表彰の区分：農林水産大臣賞、農林水産技術会議会長賞（原則として5件以内）及び農林水産・食品産業技術振興協会会長賞（原則として3件以内）

公募期間：平成30年4月～6月（例年の予定）

#### 3) 第14回若手農林水産研究者表彰事業

優れた功績をあげた若手研究者または将来の技術革新等につながる優れた研究業績をあげた若手研究者（平成30年4月1日時点において40歳未満）を対象に実施する。

主催：農林水産省

協賛：公益社団法人農林水産・食品産業技術振興協会

表彰の区分：農林水産技術会議会長賞 5件以内

公募期間：平成30年4月～6月（例年の予定）

#### 4) 農事功績者表彰事業候補者の推薦

公益社団法人大日本農会から農事功績者表彰への推薦依頼があった場合には、当協会のこれまでの顕彰者から、農業技術開発に顕著な功績をあげ、その技術が地域農業の振興・発展に極めて大きな貢献をしたと認められる者を、候補者として推薦する。

## 2. 農林水産・食品分野におけるイノベーション促進のための支援

試験研究機関における研究成果等を全国的に収集し発信するとともに、研究成果の普及・実用化過程における問題点や課題を明らかにすることで、試験研究機関において開発された研究成果が農林水産業や食品産業の現場で活用され、産業化に結び付くことを目的として以下の事業を実施する。

### 1) 情報の提供・普及

#### (1) 講演会、セミナー等の開催

農林水産・食品産業分野における技術問題に関して、月1回程度のセミナーやシンポジウムの開催を企画し、会員に対する情報提供・意見交換を行うとともに、交流会を開催する。

このほか、協会が事務局を担当している「植物品種保護戦略フォーラム」、「新品種産業化研究会」においても、それぞれの目的に即した会員及び広く関心を持つ者を対象にしたシンポジウムやセミナーを開催する。

#### (2) 機関誌の発行、情報のホームページ等での公開

機関誌「JATAFF ジャーナル」を毎月刊行する。

全国農業協同組合連合会が国内生産者への技術情報の提供を目的に毎月発行している情報誌「グリーンレポート」に対し、国立研究開発法人や公設試験研究機関等における最新の研究成果情報等を調査・収集し、新技術として営農活動に寄与できる成果を紹介する原稿を提供する。

ホームページによる最新情報の提供に努め、会員ニーズと社会的関心に応えるよう引き続き内容の充実を図る。「農林水産業等の関連製品紹介」のページでは、会員が開発し保持する技術や資材等の製品情報をPRし、その有効活用を図る。

セミナー・シンポジウムの開催情報、最新の研究成果情報、競争的研究資金制度などの関係情報を月2回のメールマガジンによりタイムリーに情報発信する。

### 2) 新産業の創出、研究開発・成果の普及のための調査・支援

#### (1) 「知」の集積による産学連携支援事業

農林水産・食品産業の成長産業化を通じて、国民が真に豊かさを実感できる社会を構築するため、農林水産・食品分野とさまざまな分野の連携により、革新的な研究成果を生み出し、これらをスピード感を持って商品化・事業化に導くため、2年前に「知」の集積と活用の場と

いう産学連携研究の仕組みが立ち上がっている。

この仕組みの中で、当協会は地域産学連携コンソーシアムの代表機関として、全国に配置した高度な専門知識を有するコーディネーター（CD）を駆使し、民間企業等が行う商品化・事業化に向けた研究開発や農林水産・食品分野と様々な分野が連携した研究開発の促進を図る。

また、全国規模及び地域においてセミナーを開催し、研究開発シーズや商品化・事業化シーズの収集・提供等を行うとともに、さらには、各地域での技術交流展示会の開催を通じて、研究開発の成果が商品化・事業化に結びつくよう取組みを行う。

## **(2) 食料生産地域再生のための先端技術展開事業における研究課題の進行管理調査等に係る業務委託事業**

食料生産地域再生のための先端技術展開事業において実施される研究課題の進行管理、調査取りまとめ等を専門POを配置して実施する。

## **(3) 農林水産・食品分野における研究成果の普及状況に関する調査等**

研究開発事業における研究成果の普及状況の把握・分析等に関する調査分析業務を実施する。

## **(4) 植物品種の保護、開発等に関する調査研究**

### **ア 「植物品種保護戦略フォーラム」の活動**

植物品種育成者権の保護とその活用の促進に寄与するために「植物品種保護戦略フォーラム」（会員：約 180 組織・個人）の事務局として、植物品種育成権侵害対策や活用に関する活動を行う。

品種保護制度と知的財産、種苗産業に関する施策、植物遺伝資源などをテーマとして講演会を開催する。

情報提供としてメーリングリストを通じてフォーラム関係者に随時、情報を送付する。

登録品種の統一表示マーク（PVP）の普及に向けた活動等を行う。

### **イ 「新品種産業化研究会」の活動**

地域経済の活性化につながる植物新品種の産業化を促進するため、関連情報の交換、共同研究の推進等を行う。

サツマイモ新品種の利活用を図る「すいおう分科会」並びに「油糧米分科会」を分科会活動として運営する。

### **ウ 農林水産省からの委託事業の実施**

「植物品種等海外流出防止対策コンソーシアム」の代表機関として「植物品種等海外流出防止緊急対策事業」及び「植物品種等海外流出防止総合対策事業」を実施する。また、植物品種の保護、開発等に関する委託事業の公募があった場合に、公募内容を適宜判断し

て応募する。「植物品種等保護環境整備事業」、「海外遺伝資源の取得に係る枠組み構築委託事業」などを想定する。

#### (5) 農林水産省等からの委託事業等の実施

平成29年度に取り組んだ「地理的表示産品情報発信委託事業」については、農林水産省から公募があったことから、応募に向けて検討する。その他の委託事業等について農林水産省等から公募があった場合には、公募内容を適宜判断して応募する。

### 3. 農林水産・食品分野における試験研究、技術開発を振興するための助成及び先端産業技術の開発

地域の実態に即した技術開発に対する助成や革新的な技術開発を通じて、農林水産業・食品産業における技術革新を目指した事業を実施する。

#### 1) 研究の助成

協会が運営する「新稲作研究会」事業として、我が国の土地利用型農業の活性化及び需要に応じた農業生産の拡大・環境保全に資するため、低コスト稲作、水田高度利用、野菜果樹作等の機械化一貫栽培体系の確立と普及を目的とした試験及び現地実証展示圃事業を試験研究機関及び普及機関に委託して実施する（実施予定課題：30課題）。

#### 2) 農林水産・食品産業マイクロ・ナノバブル技術研究組合の事務局活動

マイクロバブル発生装置利用に関する可能性調査、大学、企業等の情報収集と会員等への発信、シンポジウム等の開催とともに、「知」の集積と活用においては農林水産・食品産業ファインバブル研究開発プラットフォームの中心メンバーとして、マッチングによるリサーチプロジェクトの構築を図り、また、研究開発プラットフォーム間の連携にも努め、マイクロ・ナノバブル技術の研究開発が様々な分野に展開するよう働きかける。

#### 3) 戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)課題の実施

**NBTの社会実装のための社会科学的調査と導入遺伝子残存や変異発生等に関する科学的知見の集積**

NBTを利用して開発された農林水産物の産業化を推進するための会議の事務局を担当するとともに、国民の受容レベルの推測、上市・普及に供するための具体的戦略・手法を提案する。

#### 4) 「知」の集積事業」研究開発プラットフォーム

##### (1) 次世代育種技術研究開発プラットフォーム

管理運営機関：JATAFF、プロデューサー：吉田理事長

遺伝資源問題、育種技術の発展に伴う知財や規制、社会実装の問題等について情報交換、議論を行い、遺伝資源の有効活用、ゲノム編集を始めとする次世代育種技術等を利用した新品種開発とその社会実装を図るためのビジネスモデルを作成し、それを実現するのに必要な技術課題等についての研究課題を企画提案する。

##### (2) 農林水産・食品産業ファインバブル研究開発プラットフォーム

管理運営機関：FBIA、プロデューサー：松井純 三重 TLO 取締役

ファインバブルを用いた農林水産・食品水産・食品産業支援機能（生長促進、洗浄・殺菌、除染、機能獲得等）の研究開発を行う。

#### 5) 農林水産省等からの委託事業等の実施

革新的技術開発等に関する委託事業や補助事業の公募があった場合には、公募内容を適宜判断して応募する。

## II その他の事業

### 1. 農林水産技術同友会等への協力

農林水産技術同友会、全国農業関係場所長会の事務局としてこれら組織の活動を支援する。

### 2. 民間育成品種等の公的機関での評価試験委託

会員企業からの要請に基づき、会員企業が育成した品種の評価試験や新資材に関する試験を関係試験研究機関に委託して実施する。

### 3. 専門部会活動

「安全性・品質保証部会」を通じて、会員活動の充実と関係官庁、関係業界との情報交換、さらには会員参加による効果的な事業運営を図る。